

震災のとき、中学一年生でした。あの大きな地震と大津波。今でも怖さでいっぱいだったことを鮮明に覚えています。

震災後、放射能への恐れから、私は一人家族から離れ、川崎市のおばさんの家に避難しました。地元相馬市とはまったく異なる大都市に転校し、慣れない生活が始まりました。転校先では、皆とても親切で新しい出会いもありました。

でも高校生になったら、福島に帰ることを決めていました。幼いころから祖母と一緒に野菜を育て、農作業を手伝った経験から農業に興味を持っていました。家は半壊

東北復興日記

117



相馬農業高校2年 持立和歩さん

育てた菜種油商品化

し、畑も全部使えなくなりましたが、相馬農業高校に進学しました。

今、農業クラブの活動に熱中しています。農業クラブは、全国の農業高校で組織され、プロジェクト研究や技術競技など

が行われています。私たちのグループは、塩害に強く、油分から放射性物質が検出されない菜種を栽培しています。津波被害を受けて何もなくなつた場所に、私たちがまた菜種が芽吹き、春には

質が検出されない菜種を栽培しています。津波被害を受けて何もなくなつた場所に、私たちがまた菜種が芽吹き、春には



黄色い花で埋め尽くされました。夏には種子を収穫し、搾油しました。南相馬農地再生協議会、えこえね南相馬研究機構の皆さんと共にプロジェクトを進め、この菜種油を「油菜ちゃん」とネーミングし、新たな商品を作り上げるのができました。写真。

農業クラブの活動を通して私はたくさんの人と出会いました。県外の多くの方からも温かい支援をいただきました。私たちがいつまでも被災者でいることはできません。若い私たちにとって、こ

の経験は震災で大きく失ったものを取り戻す機会なのだと思えてきました。震災から三年、地域では除染や復興に向けた作業が続き、今なお多くの方が仮設住宅に暮らしていることも事実です。これからも私たち被災地の若者が笑顔を絶やさず、地域の皆さんと一緒に前に向かって歩み続けていかなければならぬ、とあらためて強く思います。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。